

2014 年 11 月 27 日

～ アフラック日本社創業 40 周年企画 ～ 「データでみるアフラックの 40 年」を発表

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長:外池徹)は、1974 年の日本社創業から、2014 年 11 月で創業 40 周年を迎えました。

これに伴い、この 40 年間に当社が築いてきた保険販売面での実績や給付に関するデータなど全 40 項目を洗い出し、このたび「データでみるアフラックの 40 年」としてまとめました。

アフラックは創業以来、「生きるための保険」のパイオニアとして、時代の変化を先取りした商品やサービスを地道に提供し続けた結果、日本で最も多くのご契約をお預かりする保険会社にまで成長することができました。当社はこれまでの皆様からのご支持に対する感謝の気持ちを忘れず、これからも“「生きる」を創る”会社として、新たな価値を創造し続けてまいります。

◆「データでみるアフラックの 40 年」概要（代表的なデータ）

【会社概要編】

① ご契約者数：1,502 万人(2014 年 3 月末)

日本国内のお客様数は 1,500 万人を超え、日本の 4 世帯に 1 世帯のお客様*に、がん保険をはじめとした当社保険にご加入いただいています。

※総務省発表の住民台帳に基づく日本の世帯数(2013 年 3 月末現在)と当社の世帯別保有契約数(2014 年 1 月現在)より算出

【お支払いに関するデータ編】

② がん保険によるお支払い金額(累計)：6 兆 178 億円(2014 年 6 月末)

がん保険を発売した翌年(1975 年)に第 1 回目のお支払いを開始して以来、40 年間の累計でのお支払い金額は 6 兆円を突破しています。

③ 患者本人のがん病名の認識度：約 25%(1986 年) ⇒ 約 95%(2013 年)

がんと診断され、初めて入院のご請求をいただいたときに、患者本人が自分の病名を「がん」と認識していた割合は 1986 年時点ではわずか 25%だったのが、直近では 95%と、インフォームドコンセントが社会的に普及したのと同時に、がんは“不治の病”から“治る病気”へと劇的に変化したことがわかります。

【社会貢献活動編】

④ アフラックペアレンツハウスの利用者数：11 万人超(2014 年 10 月末)

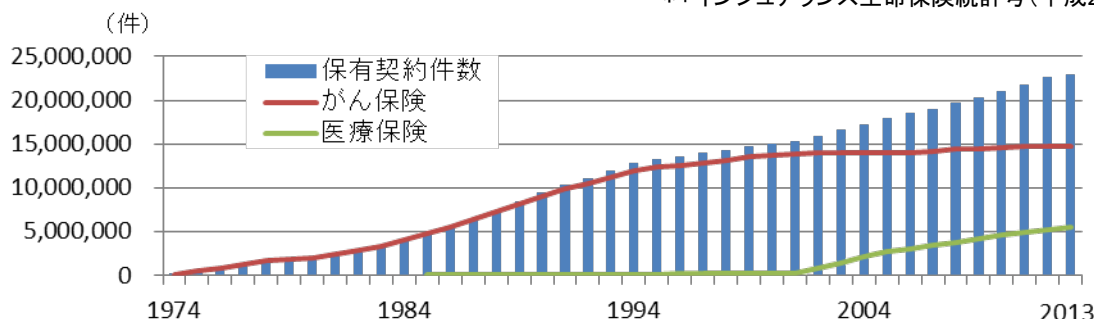
アフラックが支援する小児がんとそのご家族のための施設の利用者は、海外からの利用者も含め、延べ 11 万人を超えています。

会社概要編 (1)

【保有契約件数】業界最多*の2,297万件(2014年3月末)

①

*「インシュアランス生命保険統計号(平成26年版)」より



※数値は各年度末現在／個人保険・個人年金保険の合計／1974～1978年度は口数ベース

【契約者数】1,502万人*¹(2014年3月末)

②

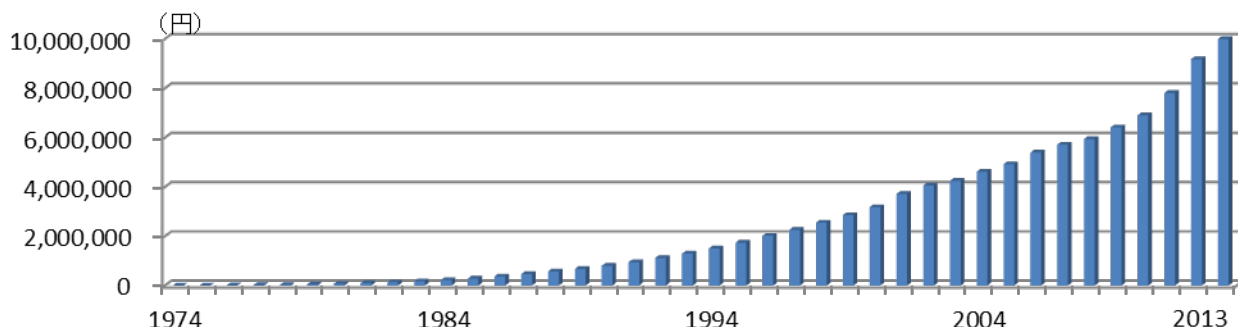
日本の4世帯に1世帯のお客様*²に、がん保険をはじめとする当社商品にご加入いただいています。

*1: 個人保険・個人年金保険合計(年金支払い開始後契約を含む)の保有契約を契約者(法人を含む)単位に名寄せした人数

*2: 総務省発表の住民台帳に基づく日本の世帯数(2013年3月末現在)と当社の世帯別保有契約数(2014年1月現在)より算出

【総資産】10兆789億円(2014年3月末)

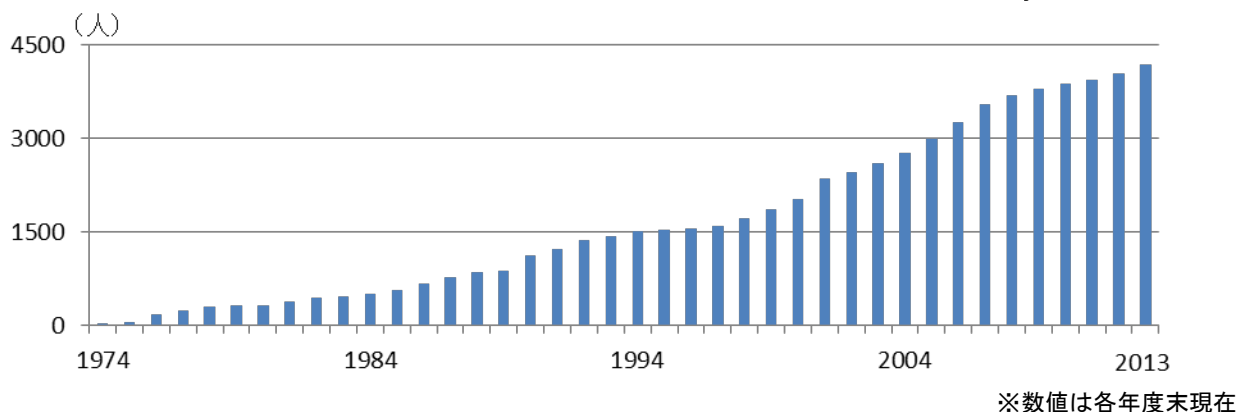
③



※数値は各年度末現在／1999年度より貸倒引当金を資産の控除項目として計上し算出／金融商品に係る会計基準に基づき、2001年度からその他有価証券の時価評価を適用

会社概要編 (2)

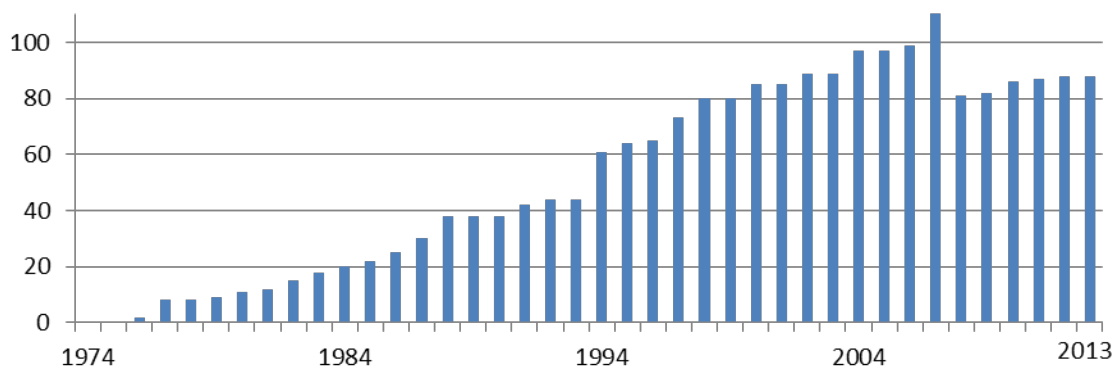
【社員数】1975年3月末:15人 → 2014年3月末:4,189人^④



【新卒採用者数】^⑤

- ・創業から2年後の**1976年**から新卒採用を開始
- ・新卒社員の平均採用数: 毎年 **170人**
(2000～2013年までの平均)

【営業拠点数】1976年:2支社 → 2014年:**88**営業部・支社^⑥

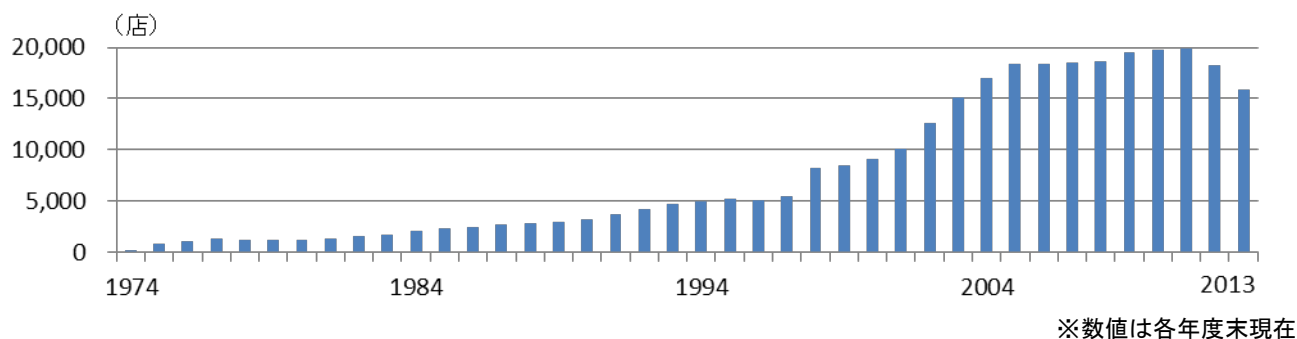


会社概要編 (3)

【販売代理店(アソシエイツ)数】

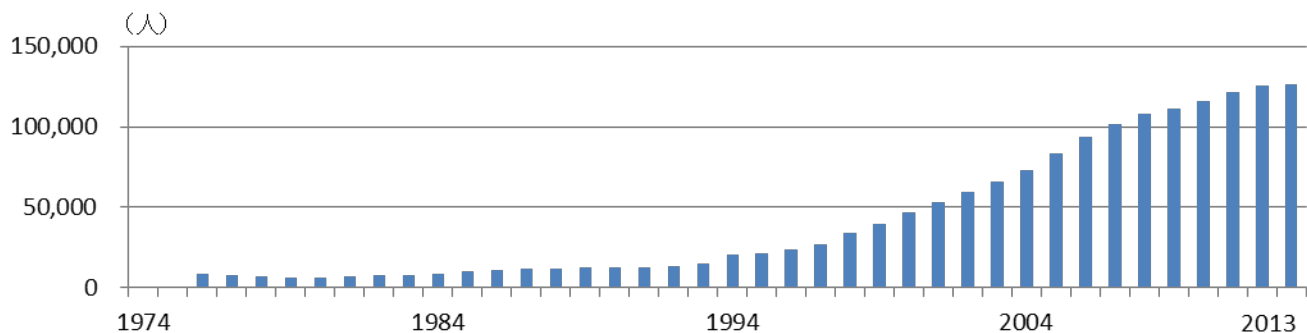
⑦

1975年3月末:169店 → 2014年3月末: **15,926店**



【募集人数】1976年:8,415人→2014年3月末: **126,273人**

⑧



【女性役員数】

⑨

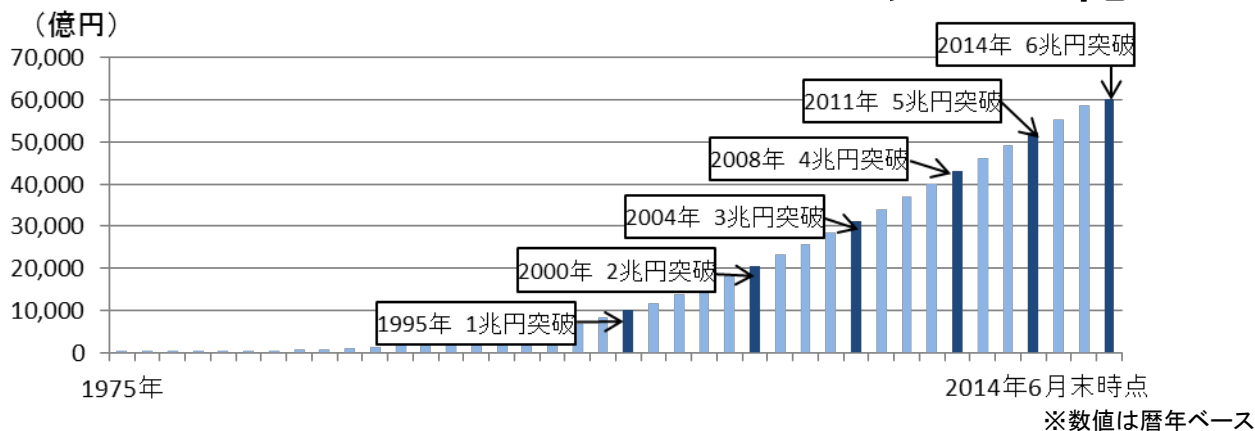
・**1997年**、日本の生保業界で初となる女性役員が誕生

※同年1月付で湯本壬喜枝(ゆもと・みきえ)が取締役(常勤)に就任

・これまでに累計**9人**の女性役員が誕生し、2014年11月現在、
4人の女性執行役員が在籍

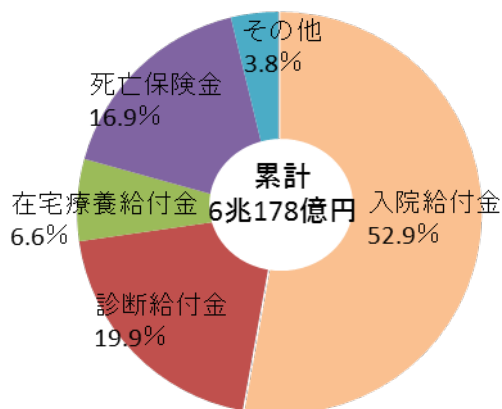
お支払いに関するデータ編 (1)

【がん保険による給付金等の累計支払金額】6兆178億円^⑩



【がん保険による給付金等の種類別支払金額】^⑪

給付金が全体の**約8割**と、
“生きるための保険”としてお役
立っていただいています。



※2014年6月末時点の累計

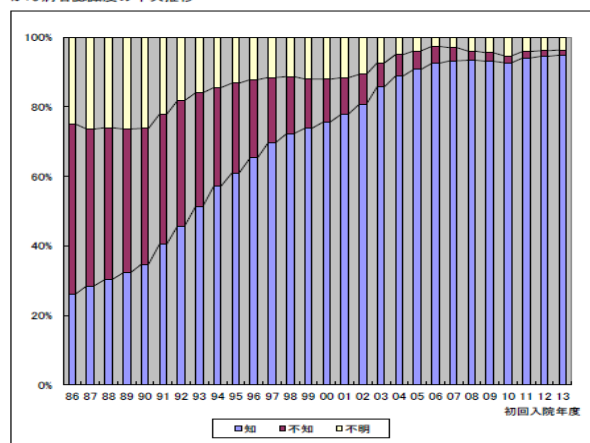
【患者本人のがん病名の認識度】^⑫

初めて「がん」による入院のご請求をいただいたときに、患者本人が自分の病名を「がん」と認識していた割合

約25% (1986年)

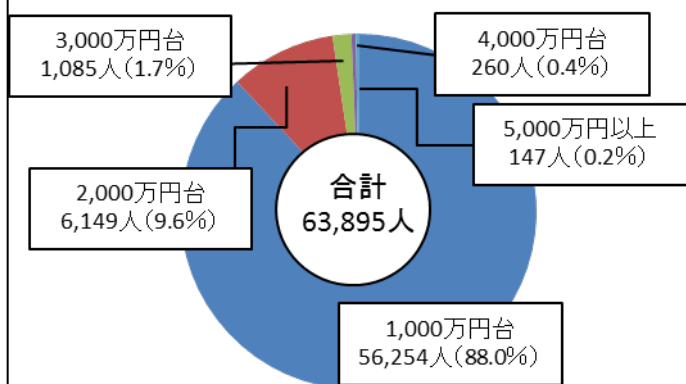
→ **約95%** (2013年)

がん病名認識度の年次推移



お支払いに関するデータ編 (2)

【がん保険 支払金額1,000万円以上の被保険者数】^⑬

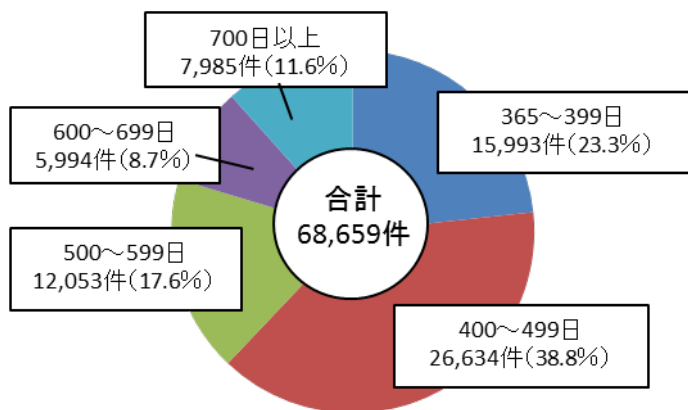


63,895人

がんという病気の特徴上、高額なお支払い事例が多数発生しています。

1. 件数は、被保険者単位で計上しています。
2. 金額階級については、証券数・口数の加入形態の別にかかわらず、被保険者1人に支払った金額で計上しています。
3. 2013年12月末時点の累計

【がん保険「入院給付金」通算支払日数365日以上の支払証券数】^⑭

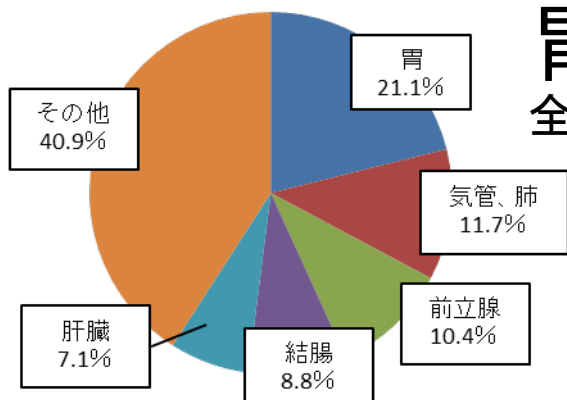


68,659件

がんという病気の特徴上、長期にわたるお支払い事例が多数発生しています。

※2013年12月末時点の累計

【がん保険 部位別「入院給付金」支払件数比率(男性)】^⑮



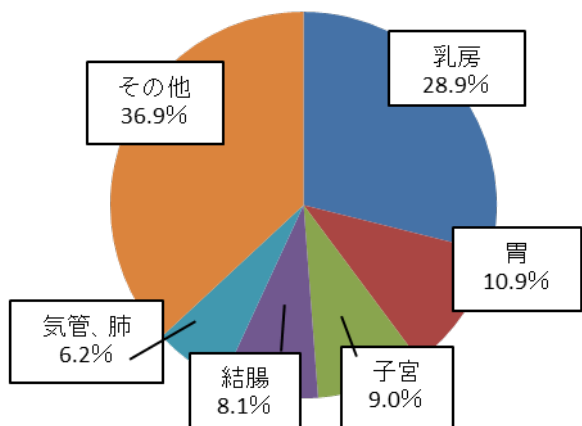
胃・気管、肺・前立腺で、
全体の4割以上を占めています。

1. 複数の部位で給付があった場合、それぞれの部位で計上しています。
2. 2013年12月末時点の累計

お支払いに関するデータ編 (3)

【がん保険 部位別「入院給付金」支払件数比率(女性)】

⑬

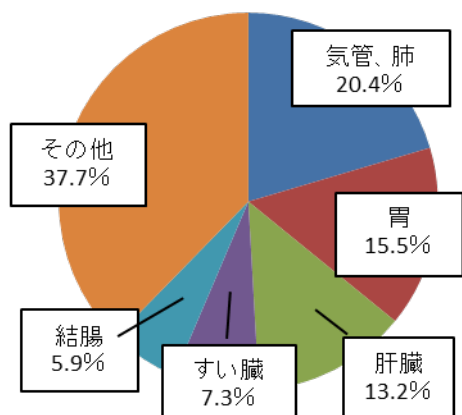


**乳房・胃・子宮で、
全体の約半数を占めています。**

- 1.複数の部位で給付があった場合、それぞれの部位で計上しています。
- 2.2013年12月末時点の累計

【がん保険 部位別「死亡保険金」支払件数比率(男性)】

⑭

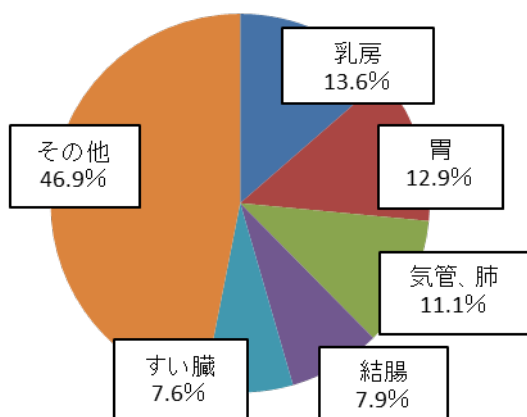


**気管、肺・胃・肝臓で、
全体の約半数を占めています。**

※2013年12月末時点の累計

【がん保険 部位別「死亡保険金」支払件数比率(女性)】

⑮



**乳房・胃・気管、肺・
結腸・膵臓で、
全体の半数以上を占めています。**

※2013年12月末時点の累計

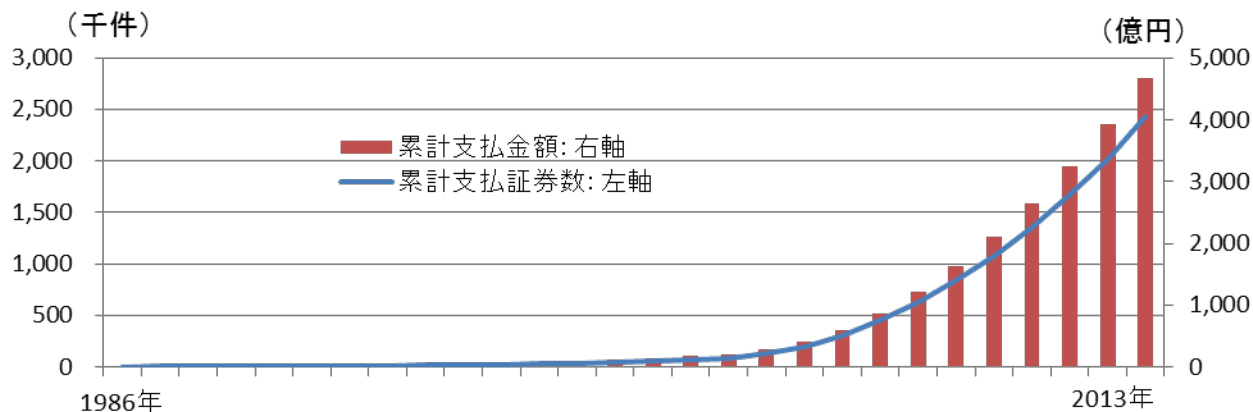
お支払いに関するデータ編 (4)

【医療保険の支払証券数と支払金額】

⑱

2002年に終身医療保険「EVER」を発売し、支払件数が急増。

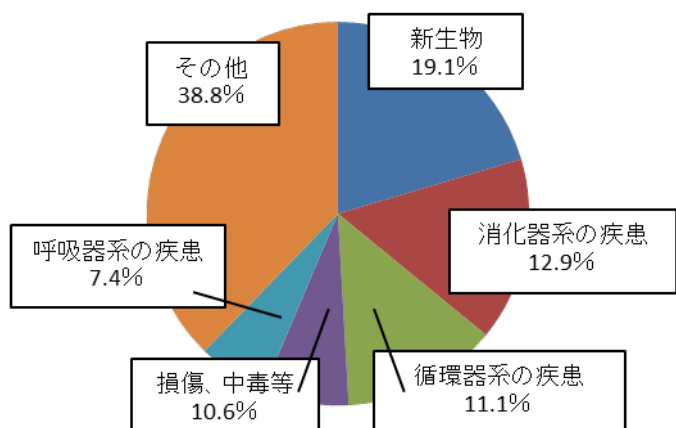
2013年12月末時点で**240万件**を突破しています。



1. 同一証券で複数の年度で給付があった場合、金額・証券数ともそれぞれの年度で計上しています。
2. 数値は暦年ベース

【医療保険 疾病分類別「入院給付金」支払件数比率(総数)】

⑳



がんなど**新生物**が
全体の約2割を占めています。

※2013年12月末時点の累計

社会貢献活動編 (1)

【アフラックペアレンツハウスの延べ利用者数】

②1

111,396名

(延べ家族数:9,995家族)

※2014年10月末時点

「アフラックペアレンツハウス」は、小児がんなどの難病のために、自宅を離れ専門病院で闘病する子どもたちとそのご家族のための総合支援センターです。

ご家族は1人1泊1,000円(患児は無料)で、患児の治療中は期間の制限なく、滞在が可能です。

【アフラックペアレンツハウスの年間運営費】

②2

約1億3,000万円

※2013年4月～2014年3月

2014年現在、東京に2棟(江東区亀戸、台東区浅草橋)、大阪(大阪市中心部)に1棟のペアレンツハウスを運営しています。運営費は、アフラックはもとより、社員及びアソシエイツなどの寄付によってその全額がまかなわれています。

【小児がん経験者・がん遺児奨学金制度による支援実績】

②3

奨学生数(累計)

2,079名

奨学金給付額(累計)

13億円超

※2014年10月末時点

「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」は、がんで主たる生計維持者を亡くし、経済的理由から就学や進学のお金が狭められている高校生や小児がんを患ったことのある高校生を支援する活動です。1995年に設立し、月額25,000円(年額30万円)の奨学金(返還不要)を高校卒業まで給付しています。

社会貢献活動編 (2)

【がん啓発のための提携自治体数】

24

110自治体
47都道府県、63市区町

2008年12月に福井県との「がん検診受診促進等に向けた包括連携協定」を締結して以降、47都道府県を含む110の自治体と連携し、地域に根差したがん啓発活動を自治体とともに推進しています。

※2014年10月末時点

【チャリティーコンサートの累計開催回数】

25

123回

累計寄付金額: 5,581万円
累計来場者数: 137,628名

1994年から、小児がん支援の輪を広げることが目的に全国各地でチャリティーコンサートを開催しており、近年では、がん検診受診に対する呼びかけなども行っています。



※2014年10月末時点

【ダックチャリティーの累計寄付金額】

26

2億1,164万円

「アフラックペアレンツハウス」
「アフラック小児がん経験者・
がん遺児奨学金制度」に寄付

アソシエイツが販売促進ツールとして「アフラックダック」を購入すると、当社がそれに連動して寄付を行う「ダックチャリティー」を2004年から行っています。



ちびちびダック

※2014年3月末時点

社会貢献活動編 (3)

【バレンタイン献血の延べ参加人数(6年間)】

27

9,855名

阪神・淡路大震災による被災者への支援をきっかけに1995年からスタートした献血ボランティアで、毎年恒例の活動として広く社員やアソシエイツに定着しています。



※2009～2014年の6年間

【パンボラによる累計販売金額】

28

9,186万円



2001年から、東京都調布市にある当社オフィスビル「アフラックススクエア」のロビーで、通所授産施設「すまいる」(知的ハンディキャップのある方が仕事を通して自立を目指す福祉施設)のパン工房で焼いたパンを販売しています。

※2014年10月末時点

【がんを知る展の累計開催回数】

29

58回

累計来場者数: 156,379名

がんの発生メカニズムや最新の治療法など、がんの理解を深めることができる「がんを知る展」を2004年から全国各地で開催しています。ショッピングモールなどの大型商業施設での開催を含め、これまでに15万人以上が来場しています。



※2014年10月末時点

アフラックダック・SNS編 (1)

【なぜ、コーポレートキャラクターとして“ダック”を起用？】

③



英語でのアヒルの鳴き声“クワック(Quack)”が、“アフラック(Aflac)”に似ていることなどから、2000年に米国でコーポレートキャラクターとして「アフラックダック」を起用しました。

2003年には日本でも正式に起用し、それ以降、アフラックダックはまさにアフラックの顔として活躍を続けています。

【ダックの性格は日本とアメリカで違いが！？】

③

日本では親しみやすいキャラクターとしておなじみですが、米国では活発なキャラクターとして、全米で“Aflac!!”と大声で叫んでいます。

日本：親しみやすく、やさしく寄り添うダック

米国：積極的で活発なダック



米国のダック

【アフラックダックの日本における知名度】

③

92.3%

(アフラック「キャラクター調査(2010年2月)」より)



アフラックダックの日本での知名度は90%以上。

アメリカでも、ダックの起用により、全米での社名認知度は約10%から90%以上に大きく向上しました。

アフラックダック・SNS編 (2)

【バラエティーに富んだイメージキャラクター】

33

アフラックダック以外にも、「まねきねこダック」や「はじめてダック」などの親しみやすいキャラクターや、毒舌だけどどこか憎めないブラックスワンなどが登場しています。



ブラックスワン



まねきねこダック



まねきたまダック



はじめてダック

【アフラックFacebookページにおける“お友達数”】

34

約153,000名

「アフラックFacebookページ」を2011年から開設し、毎日の生活を応援するさまざまな情報を広く発信しています。



2014年10月末時点

Facebookページアドレス

<https://www.facebook.com/aflac.co.jp>

【アフラックLINEページにおける“お友達数”】

35

2013年から「アフラックLINE公式アカウント」を開設し、アフラックに関する最新ニュースやキャンペーンなど楽しい情報をお届けしています。また、アフラックダックやブラックスワンのスタンプも大好評です。

約1,280万名



2014年10月末時点

トリビア編 (1)

【日本社創業のきっかけは“マスク”】

36



米Aflac創業者、エイモス3兄弟

1970年、大阪万国博覧会の開催中に初来日した米Aflac社長(当時)のジョン B.エイモスが、多くの日本人が風邪予防のためにマスクをしているのを見て、その健康や衛生に対する意識の高さに着目。その頃すでにがんが死因の2番目にまで増加していた日本に進出することを決意しました。

【1974年、生保業界で初めて代理店制度を採用】

37



初の代理店講習会

創業当時はオイルショックによる不況の真っ只中。しかし多くの企業が、収益多角化のために、グループ会社として保険代理店を立ち上げるなか、アフラックは創業当初から銀行、新聞社、テレビ局、電力会社などの一流企業を中心とした企業系列の代理店を得ることで、強固な販売網と顧客基盤を築くことができました。

【1985年、痴呆介護保険を世界で初めて開発】

38



当時、発症率など認知症に関するデータがほとんどないなか、地方自治体や海外のデータを精緻に検証しながら、世界で初となる痴呆介護保険を開発しました。

同年、保険商品としては初めて「日経・年間優秀製品賞」において最優秀賞を受賞しました。

トリビア編 (2)

【歴代ロゴ】創業以来、現在のロゴは5代目となっています。

39

初代

2代目

3代目

4代目

5代目



※4代目から5代目の改訂時には、全体的に角をシャープにし、より「現代的」で「洗練された」イメージを目指しました。

【アフラックが応援しているサッカーチームは？】

40



©1993 .H.K.REYSOL

KASHIWA
Reysol

1999年から、アフラックは千葉県柏市に本拠地を置く「柏レイソル」をユニフォームの背面スポンサーとして応援しています。

年に一度、「アフラックデー」を開催し、レイソルの選手たちと小児がんを患った子どもたちの交流イベントなども行われています。